

平成30年度 「楽楽心」事業計画書(小規模多機能型居宅介護施設計画書)

1 入所定員 29名(通い18名、泊り9名)

2 職員定数 12名(常勤12名)

3 事業運営基本計画

楽楽心、要介護者の居宅及び事業所において、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者がその有する能力に応じてその居宅において自立した日常生活を営むことができるようにする。

4 サービス提供の取扱方針

(1) サービス提供の取扱方針

事業所の職員は、通いを中心として、要介護者の様態や希望に応じて、随時訪問や宿泊を組み合わせるサービスを提供することにより、利用者居宅における生活の継続を支援するよう努めるものとする。

事業の実施に当たっては、地域包括支援センター、地域の保健・医療・福祉サービスの提供主体との綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

(2) 小規模多機能型居宅介護計画の作成

- 1 事業所の介護支援専門員は、小規模多機能型居宅介護の提供の開始に当たり、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、他の職員と協議の上、援助の目標、当額目標を達成するための具体的なサービスの内容等を記載した小規模多機能型居宅介護計画を作成する。
- 2 小規模多機能型居宅介護の提供にあたっては、以下の点に留意して行う。
 - イ 地域住民との交流や地域活動への参加を図りつつ、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、サービスを柔軟に組み合わせることとする。
 - ロ 利用者一人一人の人格を尊重し、利用者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮する。
 - ハ 小規模多機能型居宅介護計画に基づき、漫然かつ画一的にならないように、利用者の機能訓練及びその者が日常生活を営むことができるよう必要な援助を行う事とする。
 - ニ 登録者が通いサービスを利用していない日においては、可能な限り、訪問サービスの提供、電話連絡による見守り等を行う等登録者の居宅における生活を支えるために適切なサービスを提供することとする。

(3) 小規模多機能型居宅介護の内容

- 1 通いサービス 事業所において、食事や入浴、排せつ等の日常生活上の世話や機能訓練を行う。
- 2 宿泊サービス 事業所に宿泊していただき、食事や入浴、排せつ等の日常生活上の世話や機能訓練を行う。
- 3 訪問サービス 利用者の居宅において、食事や入浴、排せつ等の日常生活上の世話や機能訓練を行う。
- 4 サービスの提供に当たっては、小規模多機能型居宅介護計画を基に、漫然かつ画一的にならないように、利用者の機能訓練及びその者が日常生活を営むことができるよう必要な援助を行う。

(4) サービス利用に当たっての留意事項

サービスの提供に当たっては、利用者に以下の点に留意していただくものとする。

- 1 サービス提供前に健康チェックを行い、結果によっては、入浴サービス等を中止する可能性があること。
- 2 利用当日に欠席をする場合には前日もしくは当日8時00分までに事業所に連絡をしていただくこと。
- 3 サービス提供上、他の利用者の方に迷惑となる行為等が見られた場合、利用の中止をしていただくことがあること。

(5) 緊急時等における対応方法

- 1 事業所の職員は、指定小規模多機能型居宅介護の提供中に、利用者の心身の状況に異常、その他の緊急事態が生じたときは、速やかに主治医に連絡する等の措置を講ずるとともに、管理者に報告しなければならない。
- 2 主治医との連絡及び指示が得られなかった場合には事業所が定めた協力医療機関へ連絡するとともに受診等の適切な処置を講ずる。

(6) 事故発生時の対応

- 1 当事業所は、利用者に対するサービスの提供により事故が発生した場合には、速やかに、保険者、利用者の家族に連絡を行うとともに、必要な措置を行う。
- 2 当事業所は、サービスの提供に伴って、事業所の責めに帰すべき事由により賠償すべき事故が発生した場合には、速やかに損害賠償を行う。
- 3 当事業所は、前項の損害賠償のために、損害賠償責任保険に加入する。

(7) 苦情処理

当事業所は、自ら提供した指定小規模多機能型居宅介護に対する利用者及びその家族からの苦情に対して、迅速かつ適切に対応するため、担当職員を置き、解決に向けて調査を実施し、改善の措置を講じ、利用者及び家族に説明するものとする。

(8) 非常災害対策

指定小規模多機能型居宅介護の提供中に天災その他の災害が発生した場合には、職員は利用者の避難等適切な措置を講ずる。管理者は日常的に具体的な対処方法、避難経路及び協力機関等との連携方法を確認し、非常災害時には避難等の指揮を執る。

非常災害に備え、年1回以上の避難訓練を行う。

(9) 運営推進協議会

- 1 当事業所の行う指定小規模多機能型居宅介護を地域に開かれたサービスとし、サービスの質の確保を図ることを目的として、運営推進協議会を設置する。
- 2 運営推進協議会は利用者、利用者の家族、地域住民の代表者及び小規模多機能型居宅介護についての知見を有する者とする。
- 3 運営推進協議会の開催はおおむね2月に1回とする。
- 4 運営推進協議会は通いサービス、宿泊サービスの提供回数等の活動状況を報告し、評価を受けるとともに、必要な要望、助言等を聴く機会とする。

(10) その他運営に関する留意事項

当事業所は、職員の質的向上を図るための研修の機会を次のとおり設けるものとし、また、業務体制を整備する。

- 1 採用時研修 採用後1年以内
- 2 施設内研修及び介護職員会議 毎月1回以上
- 3 ケアカンファレンス 必要時

5 日課

24時間体制で、食事、排泄、入浴、レクリエーション及び機能訓練の提供を行う。利用者の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、利用者の状況に合わせた日課を行うこととし、「生活の場」を意識した家庭で生活されていた環境に近い生活を送ることができるようにする。(利用者個々に合わせて職員がサービス提供を行う。)

6 月間行事

利用者に季節感を味わっていただくため、季節の行事を実施するとともに、クラブ活動や趣味の活動を実施し内容の充実を図り、利用者が自ら選んで楽しく参加いただけるようにする。地域との交流に力を注ぐとともに、地域の学校をはじめとする団体・個人による訪問やボランティアを積極的に受け入れ、ご利用者の日々の生活をよりバラエティーに富んだものにする。

月	月間行事	備考
4月	・お団子作り ・鍋会	白玉粉を使い、あんこ・胡麻・みたらし・生クリームを用意。
		具材は検討中。
5月	・母の日 ・花見 ・山菜採り	外食行事。
		時期を見てまさみつ公園などにお花見を行う。
		場所については検討。
6月	・父の日 ・流しそうめん	外食行事。
		流しそうめんの機械を、購入予定。
7月	・観光祭 ・七夕	観光祭に利用者様と参加。
		短冊と笹の葉が必要。
8月	・焼肉（BBQ） ・花火	焼肉セットを購入予定。
		花火セットが購入予定。
9月	・敬老の日	豪華な食事を作る（予定ではバイキング）。
10月	・収穫祭 ・紅葉狩り	農園と協力し畑を作り、採った野菜を調理して食べる。 実施内容は、業務係と協議中。
		外出行事。
11月	・鍋会	具材は検討中。
12月	・クリスマス ・年越し	ケーキなどを用意。
		おせち（要検討）やそばを作る。
1月	・書初め ・かるた、百人一首大会	書道セットを準備。
		利用者が持っていないか確認。
2月	・節分（豆まき）	豆は甘納豆やチョコレートで代用。
3月	・ひな祭り	ひな人形作成用の折り紙が必要。 ちらし寿司を作成。

7 施設内研修計画

	内容	開催期日
正しいバイタルについて	バイタルの正常値、正しい測定法等について施設看護師を講師に研修。	1回／年
ボディーメカニクス研修	P Tを講師に、介護時の体の使い方に関する内部研修。	
調理研修	施設調理員等を講師に、小規模施設で活用でき	1回／年

	る料理、調理技術の研修。	
ケア統一の大切さについて	何のために統一を行うのか？ 統一することでどうなるのか？ 事例発表等。	
個人情報保護法に関する研修	個人情報の取り扱いに関する内部研修。	1回/年
認知症介護実践者研修研修報告会	平成30年度の研修終了者の研修報告（今年の研修に小規模職員1名参加予定）。	1回/年
利用者の既往についての勉強会	登録者の既往について、どのような症状があるのか？対応についての検討会。	
感染予防についての研修会	施設感染対応マニュアルを使用し、感染対策についての研修を行う。	1回/年
身体拘束防止研修	身体拘束防止に関する内部研修。	
認知症サポーター養成研修。	小規模多機能型居宅介護支援施設職員向けの認知症サポーター養成研修。	1回/年
小規模多機能型居宅介護支援施設等外部研修報告会	小規模多機能型居宅介護支援施設での実習を行い、研修報告を行う（美瑛等での研修未参加者を予定）。	1回/年

8 職員配置

管理者	1名（兼務）
計画作成者（介護支援専門員）	1名（兼務）
介護職員	9名
看護職員	2名

9 資金計画

別紙 平成30年度介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）のとおり

※平成30年第1回定例村議会に提出後別途添付。